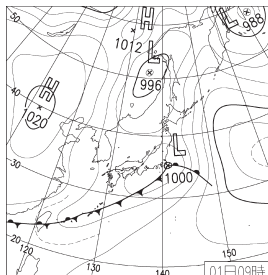


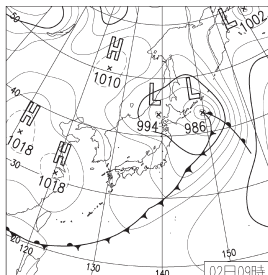
# 日々の天気図

— No. 208  
2019年5月

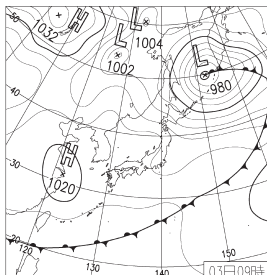
- ・13日は与那国島で、18日は屋久島で、50年に一度の記録的な大雨。屋久島では登山者約300人が孤立。
- ・17～20日、宮崎県で総雨量400mm超の大雨。24時間降水量5月1位也。
- ・26日、北海道佐呂間町の最高気温39.5℃は5月全国1位を大きく更新。
- ・西～北日本で多照、高温、少雨。  
(気象庁予報部予報課)



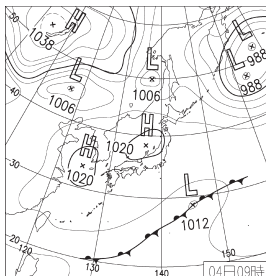
**1日(水) 令和の初日は広く雨**  
前線を伴った低気圧が発達しながら日本の南を北東進。北日本は気圧の谷が接近し湿った空気が流入。これらの影響で令和の初日は全国的に雨や曇り。旭川市でサクラ開花。



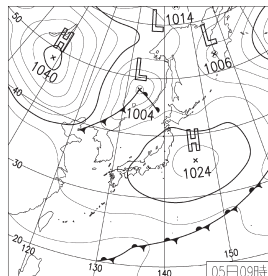
**2日(木) 成田着陸機乱気流に**  
東日本は上空約5500mに-21℃以下の寒気が南下し大気の状態が不安定で所々雨や雷雨。北日本は低気圧の影響で曇りや雨。その他は概ね晴れ。鹿児島、宮崎、長崎、大分で黄砂。



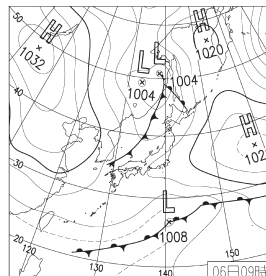
**3日(金) 高気圧に覆われて晴れ**  
移動性高気圧に緩やかに覆われ、本州付近は概ね晴れたが、西日本の山沿いでは午後は大気の状態が不安定となり雨や雷雨の所も。北海道は寒気の影響で午前中を中心に所々雨。



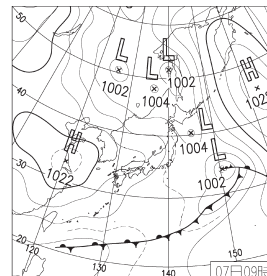
**4日(土) 東海や関東甲信で雷雨**  
高気圧に覆われて全国的に晴れたが、上空の寒気の影響で、東海や関東甲信では大気の状態が非常に不安定。所々で雷雨となり、ひよりの降った所も。室蘭市、旭川市でサクラ満開。



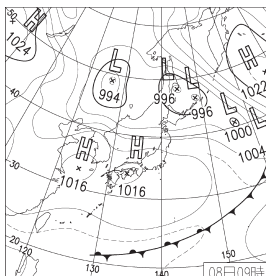
**5日(日) 北海道で震度4**  
日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れたが、西～東日本の太平洋側で大気の状態が不安定となり所々にわか雨。北海道で気温が高く、最高気温が真夏並の所も。網走市サクラ開花。



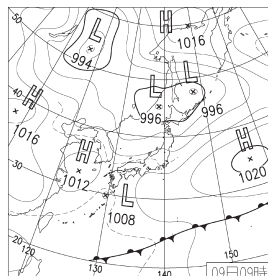
**6日(月) 10連休の最終日は雨**  
沿海州付近の低気圧からのびる寒冷前線の接近により、西日本～北日本で雨。日本海側を中心に雷雨の所も。南西諸島は湿った空気の影響で概ね曇り。長崎市ホテル初見。



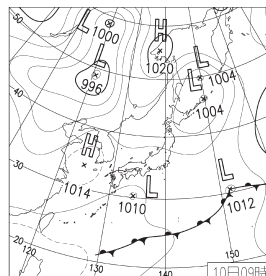
**7日(火) 稚内市でサクラ開花**  
南西諸島は湿った空気により曇りや雨。西日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。東～北日本は、午前中は寒冷前線の通過、午後は上空の寒気の影響で所々雨や雷雨。網走市サクラ満開。



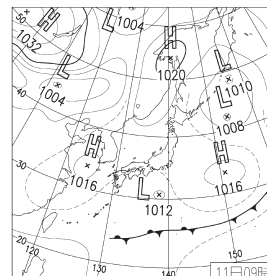
**8日(水) 青森県で暴風警報**  
西～東日本は高気圧に覆われ晴れ。明け方冷え込み、5月の最低気温の低い記録を更新した所も。北日本は低気圧の影響で北海道を中心に所々雨。青森県八戸で最大風速21.2m/s。



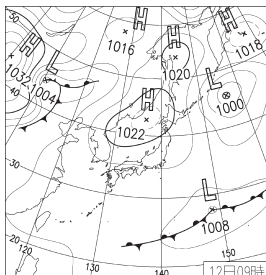
**9日(木) 釧路市でサクラ開花**  
西日本は九州や四国を中心に、低気圧の影響で雨。沖縄は気圧の谷の影響で午後には雨。東日本～北日本は晴れや曇り。稚内市でサクラ満開。盛岡市でツバメ初見。



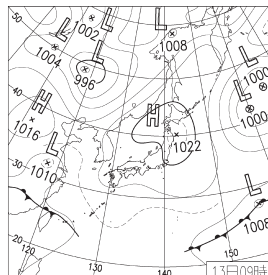
**10日(金) 宮崎県で震度5弱**  
震源地は日向灘。九州北部～東北は高気圧に覆われて広く晴れ。群馬県伊勢崎30.0℃をはじめ、全国の1/3以上の地点で夏日。沖縄～九州南部と北海道は気圧の谷の影響で曇りや雨。



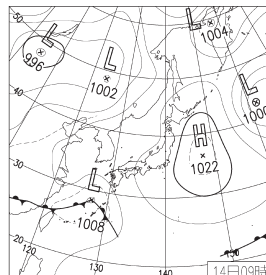
**11日(土) 高気圧に覆われて晴れ**  
北海道の一部で雨の他は緩やかに高気圧に覆われて広く晴れ。気温が上昇し、岡山県高梁で最高気温が31.2℃など真夏日の所も。日向灘を震源とする地震で愛媛県など震度4。



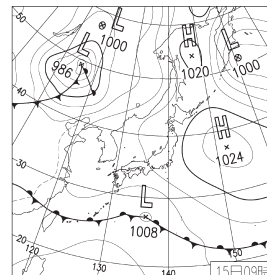
**12日(日) 西日本で最高気温上昇**  
日本海の高気圧に覆われ全国的に概ね晴れ。西日本では最高気温が30℃を超えた所も。午前中は関東の一部で湿った北東風の影響で曇り。午後は西～東日本山沿いで所々雨や雷雨。



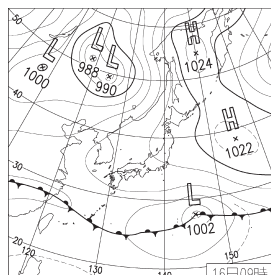
**13日(月) 与那国島で猛烈な雨**  
活発な前線の影響により、沖縄県所野(与那国島)では109.5mm/1hの猛烈な雨。西～北日本は高気圧に覆われ概ね晴れたが、午後は岐阜県など東海地方を中心に所々で雷雨。



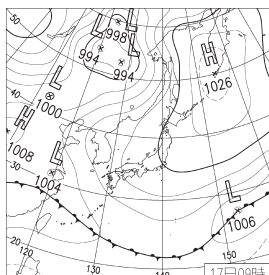
**14日(火) 奄美で梅雨入り発表**  
低気圧や前線、日本の東の高気圧からの湿った空気の影響で沖縄～東日本は曇りや雨。東北は夕方以降次第に雨。北海道は概ね晴れ。岐阜県揖斐川で38.5mm/1hの激しい雨。



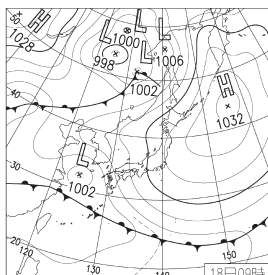
**15日(水) 九州で真夏日**  
東～北日本は湿った空気が流入し、所々で雨や雷雨。西日本は晴れや曇り。南西諸島は奄美を中心に曇りや雨。九州で気温が上昇し、福岡県久留米で30.6℃など真夏日の所も。



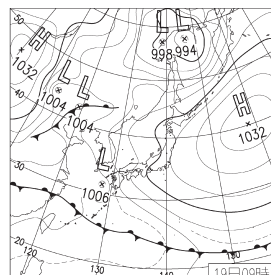
**16日(木) 高気圧に覆われて晴れ**  
西日本～北日本は日本のはるか東の高気圧に緩やかに覆われて概ね晴れたが、山沿いではわか雨の所も。沖縄・奄美は前線の影響で曇りや雨。沖縄で梅雨入り発表。



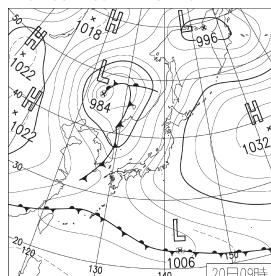
**17日(金) 沖縄～九州南部は雨**  
沖縄・奄美は前線が停滞し雨で雷を伴う所も。西日本太平洋側は湿った空気の影響で曇りや雨。その他は千島近海の高気圧に覆われ概ね晴れたが、北日本太平洋沿岸では所々で霧。



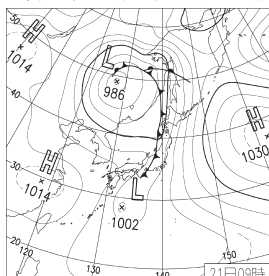
**18日(土) 屋久島で猛烈な雨**  
東～北日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。西日本は湿った空気の影響で九州を中心に雨。鹿児島県尾之間(屋久島)では100mm/1hの猛烈な雨。土砂災害により登山者が孤立。



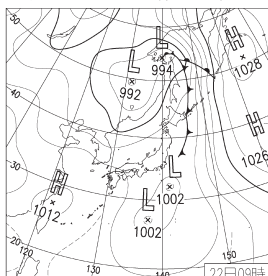
**19日(日) 九州南部で大雨続く**  
西日本には南東からの湿った空気の流入が持続。大気の状態が非常に不安定で、九州南部で局地的に激しい雨。鹿児島県内之浦の日降水量374mmは5月の1位を更新。



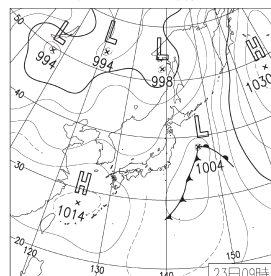
**20日(月) 宮崎県で猛烈な雨**  
沖縄～西日本は前線や湿った空気の影響で雨。宮崎県油津の81.5mm/1hは5月1位。西～北日本は南風が強く、最大風速が北海道女満別19.1m/sなど所々で5月1位。



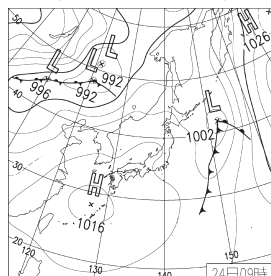
**21日(火) 太平洋側で荒れた天気**  
寒冷前線の通過で南から湿った空気が入った東～北日本は、太平洋側を中心に大雨で風も強く荒れた天気。静岡県天城山で日降水量395.5mm、東京都三宅坪田で最大風速19.1m/s。



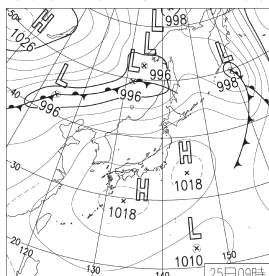
**22日(水) 久々の全国的な晴れ**  
明け方寒冷前線が北海道を通過した後、日本列島は東シナ海の高気圧に覆われ全国的に晴れ。夕方に光化学オキシダント濃度が高まった九州北部を対象にスモッグ気象情報発表。



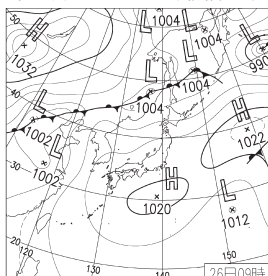
**23日(木) 各地で熱中症相次ぐ**  
東シナ海から高気圧が張り出し、ほぼ全国的に晴れて気温が上昇。最高気温が平年より10℃以上高い所も。午後は上空の寒気の影響で西日本～北日本の山沿いで所々雷雨。



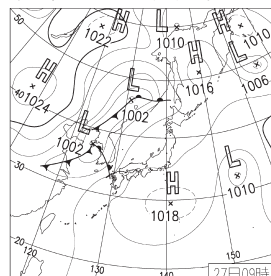
**24日(金) 全国的に晴れ気温上昇**  
日本付近は広く高気圧に覆われ全国的に晴れ。暖かい空気の流入に加えて強い日差しにより各地で気温が上昇。最高気温は東京31.0℃、大阪30.3℃など、全国174地点で真夏日。



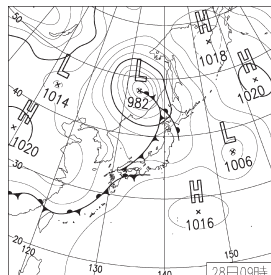
**25日(土) 千葉県長南町で震度5弱**  
日本付近は引き続き広く高気圧に覆われて晴れ。暖かい空気の流入と強い日差しにより各地で気温が上昇。大分県竹田の最高気温は35.0℃に達し、今シーズン全国初の猛暑日。



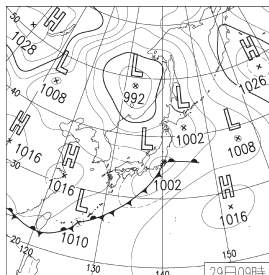
**26日(日) 北海道で記録的猛暑**  
日本の南の高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇。全国で真夏日566地点、猛暑日53地点。最高気温は、北海道の18地点がこれまでの5月の全国1位(37.2℃)を上回る記録的猛暑。



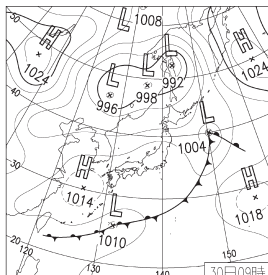
**27日(月) 北海道は連日の猛暑**  
南西諸島～西日本は前線や湿った空気の影響で次第に曇りや雨。暑さは一段落し真夏日は近畿地方など一部に。東日本～北日本は高気圧に覆われ、晴れて気温上昇。猛暑日の所も。



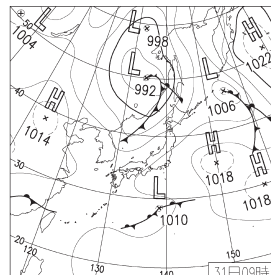
**28日(火) 全国的に雨**  
アムール川下流の低気圧からのびる前線が日本海を東進。東シナ海からは別の前線が西日本にのび、全国的に雨。北日本を中心に風が強く、北海道函館で最大瞬間風速24.5m/s。



**29日(水) 北海道の暑さ一区切り**  
沖縄・奄美は停滞する前線や低気圧の影響で雨。低気圧が通過した東日本や東北は午前中雨。北海道は北上した低気圧の影響で雨。北海道東部は、数日続いた暑さが解消。



**30日(木) 東日本の内陸は氷点下**  
沖縄の一部では前線の影響で雨。その他は、全国的に高気圧に覆われて晴れ。西～東日本では放射冷却により朝の最低気温が平年より6℃以上低い所も。長野県開田高原で-1.5℃。

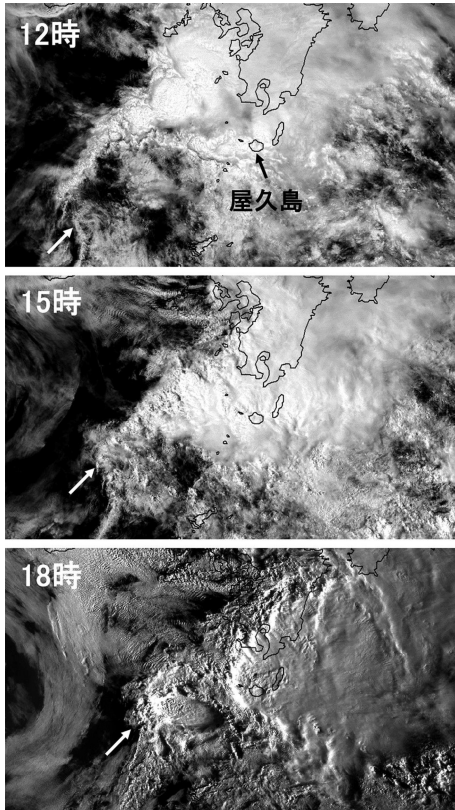


**31日(金) 九州南部梅雨入り発表**  
南西諸島には大陸から前線がのびる。西日本～東日本は気圧の谷が通過。北日本は沿海州付近の低気圧から南にのびる前線が接近。これらの影響で全国的に雨や曇り。

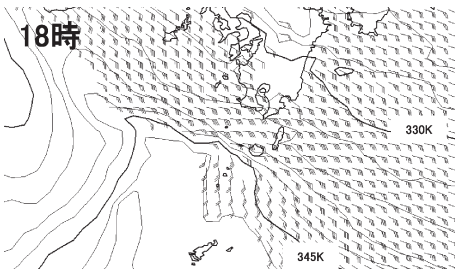


## 今月のひまわり画像—2019年5月

### 屋久島に記録的な大雨をもたらした対流雲域



第1図 2019年5月18日12～18時（日本時間）の3時間毎の九州南部付近における可視画像（白矢印の先端付近はスケールの小さい低気圧を示す）。



第2図 18日18時の第1図と同じ領域におけるMSM（同日12時初期値）による975hPa面の相当温位（3K毎）、風（20kt以上を表示、長い矢羽根が10kt（1kt=0.51m/s）を示す）。

第1図は2019年5月18日12～18時（日本時間）の3時間毎の九州南部付近における可視画像である。同日、九州南部付近の中上層では寒気を伴った明瞭なトラフ（気圧の谷）が東シナ海から四国の南海上に進んだ。ウィンドプロファイラ屋久島の観測によると、このトラフは18～19時頃に屋久島付近を通過していたことを把握できる。一方、下層では、第2図に示した気象庁メソ数値予報モデル（MSM）の975hPa面の相当温位、風の分布のように、日本の東海上で勢力を強めていた移動性高気圧の縁辺をまわる東寄りの風と東シナ海を東北東に進んだスケールの小さい低気圧（第1図中の白矢印の先端付近）の周辺の暖湿な南寄りの風による収束が顕著であった。屋久島では地形効果が加わり、同日昼過ぎから激しい雨が降っていた。このような状況下、下層で等相当温位線が密集していた収束域にあたる九州の西海上で筆の穂先状をした対流雲域が発生し、発達しながら東南東に進み、夕方頃、屋久島を通過した。このため、屋久島町尾之間では同日18時44分までの1時間に100.0mm、同町小瀬田では18時40分までの6時間に379.0mm、23時30分までの12時間に429.0mmの降水量を観測し、通年の極値が更新され、「50年に一度の記録的な大雨」となった。この対流雲域の雲頂高度の推移を  $T_{BB}$ （等価黒体温度）で調べると、屋久島を通過した直前の17時頃に最も低く、約 $-64^{\circ}\text{C}$ （高度約14kmに相当）となっていた。また、18時頃、同島はこの対流雲域の穂先部分に位置していた。

世界自然遺産の屋久島では5月中旬頃からヤクシマシャクナゲが見頃になるなど、同月は登山者が多い。記録的な大雨となった18日、縄文杉に通じる県道を中心に冠水や陥没、土砂崩れが発生し、300人以上がバスに閉じ込められるなどして孤立した。その昔、屋久島に滞在していたことのある作家の林 芙美子氏が「白い葱（ネギ）をちぎって放るような雨」という言葉を残しているが、災害当時、現地ではまさにこのような猛烈な雨が降り続いていたと想像される。

（気象庁予報部予報課 木下 仁）